



特集

子供の居場所

子供は未来を担う宝であり、地域全体で成長を見守ることが大切です。核家族やひとり親家庭が増えたり、地域のつながりが希薄になったりする中、子供が安心して過ごせる「居場所」づくりに取り組む人たちやその活動を紹介します。



①子供たちが作ったカレーライス
②「楽っこルーム」実行委員会会長の宮嶋睦子さん

は、神楽まちづくり推進協議会や神楽児童センターなどで構成される実行委員会。民生委員児童委員などの活動を通して地域をよく知るメンバーが、地域に必要な支援

おいしそうに食べています。ここは、月に1回土曜日に開催している子供食堂の「楽っこルーム」。子供食堂は、食を通して、学校や家庭以外の子供の居場所を提供する取組みとして全国に広がっており、現在市内には7か所の子供食堂があります。

楽っこルームを運営しているのは、神楽まちづくり推進協議会や神楽児童センターなどで構成される実行委員会。民生委員児童委員などの活動を通して地域をよく知るメンバーが、地域に必要な支援

は何かを考えて活動しています。会長の宮嶋睦子さんは「子育てを応援する地域づくりを目指して始めました」と子供食堂開催の動機を話します。

楽っこルームには、主に小学生の他、外に出る機会が少ない高齢者も参加できます。子供は調理に参加したら食事は無料、大人は1回300円の参加費が必要。宮嶋さんは「地域のみんなで一緒に料理を作って食べたことが心に残っていたら、大人になっても食を大事に思うことにつながるのでは」と食育に期待を寄せます。

楽っこルームには、主に小学生の他、外に出る機会が少ない高齢者も参加できます。子供は調理に参加したら食事は無料、大人は1回300円の参加費が必要。宮嶋さんは「地域のみんなで一緒に料理を作って食べたことが心に残っていたら、大人になっても食を大事に思うことにつながるのでは」と食育に期待を寄せます。

市内の子供食堂

こども食堂

回 毎月1回 16:30~19:30
 所 北星公民館(北門町8)
 詳 北門児童センター ☎52・0765

うれッぽこども食堂

回 毎月1回 10:00~14:00
 所 旅旅とぴあ北海道(宮下通23)
 ☎32・3910)

おてらde食堂

回 隔月1回 10:00~13:30
 所 妙善寺(永山4の20)
 詳 旭川大学短期大学部近藤ゼミ
 ☎48・3121

おむすびころりん

回 毎月1回 12:00~16:30
 所 詳 伊藤宅(南3の25 ☎080・1890・8536)

わいわい食堂

回 隔月1回 9:00~13:00
 所 東部住民センター(東光5の2)
 詳 東光児童センター ☎32・1473

楽っころム

回 毎月1回 10:30~13:00
 所 神楽公民館(神楽3の6)
 詳 神楽児童センター ☎63・6201

ハートフレンドカムカム

回 毎月1回 12:00~14:30
 所 神居公民館(神居2の9)ほか
 詳 神居児童センター ☎69・2225

※参加には申込みが必要。開催日や時間に変更になる場合があるので、電話で確認を。

子供食堂に食材を提供したい方、子供食堂の運営に関心のある方は、旭川おとな食堂(多機能型事業所ある内 ☎73・6692)に連絡を。

回日時 所会場 詳詳細を表します



旭川食品加工協議会会長の金田道従さん

企業が子供食堂に食品を提供

全国的に広まりつつある子供食堂に対し、食品を製造している立場で何かできることはないかと思っていたところ、市内での活動を知りました。旭川食品加工協議会に加盟する食品メーカーに呼び掛けて、食品を提供させてもらうことにしました。必要として活用してもらえますので、私たちもうれしいです。地域の食材などについても子供たちに知ってもらい、食育につながるような仕組みを考えていきたいです。



子育てで悩んでいたとき、伊藤さんに話を聞いてもらって安心できました。他の参加者からアドバイスをもらえるのも心強いです

みんなと遊んだり、食べたりするのが楽しいよ



おむすびころりんに参加した

黒川美奈さん・瑤紀さん

子供たちの笑顔のために 集

住宅街にある個人宅のカーポートに、にぎやかな声が響きます。月に1回、伊藤博康さん・美子さんが自宅を開放して行っている、学習支援とご飯と遊びの場「おむすびころりん」の開催日。正午から午後4時30分までなら、幼児や小・中学生、保護者が自由に参加できます。毎回、約40人の子供や保護者が集まり、食事をしたり、学習したり、遊んだりします。食事の準備や学習支援を行うのは、伊藤さん夫妻やサポーターたち。参加は無料で、運営費は伊藤さんの自己負担や、参加者の寄附などで賄っています。

伊藤美子さんは、社会福祉士や精神保健福祉士としての経験から、育った環境が、人間形成に大きな影響を与えることを実感。「一人は、自分がされてきたことを他人にするようになるものです。思いやりを受けて育ったら、思いやりのある人になると思います。子供たちに、信じられる大人がいるんだ、という体験をしてほしい」と話します。おむすびころりんには「ここに、あなたのために握ったおむすびがあるよ」との思いが込められています。夫の博康さんも美子さんの考えに共鳴し、一緒に取り組んでいます。

保護者から相談を受けることも多い美子さんは「保護者にとってもほっとできる場にした。私も、親だけでなく地域の人たちのおかげで育てきました。だから今、子育てを応援するのは当たり前前のことです」と笑顔で話します。



この日の食事は流しそうめん。みんなで食べると一層おいしい!



自宅を開放して「おむすびころりん」を開催している伊藤さん夫妻

遊ぶ習慣を身に付けて！ 学

北星地区センターの1室で毎週土曜日に開催されている「ゆずりは」は、北海道教育大学旭川校の学生を中心とした学習支援の場です。

午後6時30分、小・中学生や高校生が、学習道具を持って集まってきました。3〜4人が机を囲み、指導者が1人付きます。その日持参した教科書やドリルなどで自由に学習でき、分からないことがあれば指導者が丁寧に教えます。料金は参加費として、1人1回100円で、これを施設利用料に充てています。

でもらおうと始まりました。子供たちにとっては年齢の近い大人である大学生と触れ合うことで、気軽に悩みを相談してもらえれば、という思いもあります。

北海道教育大学旭川校2年生の横山瞬也さんは、1年生のときから、ゆずりはで学習支援をしています。「将来自分が進みたい道を選んでいけるように、勉強が苦手な子供たちにも『できない』と諦めないでほしいんです。数学が苦手だという子が多いのですが、できるだけ面白さが分かるように工夫して指導しています。通っているうちに、『難しい』が『面白いんだね』に変わるときが、うれしいです。教員を目指す自分にとっては自信にもなります」と、生き生きとした表情で話します。



①ゆずりはは申込み不要。開催日などは北星地区センター(☎51・9800)に問合せを

②学習支援をしている横山瞬也さん



他にもあるよ！
地域による学習支援

春光台・鷹の巣
まちづくり推進協議会

子ども居場所

●毎週火曜日=春光台公民館(春光台3の3) ●毎週木曜日=春光台地区センター(春光台3の5)

※いずれも15:30~17:30。小学4年生~中学3年生対象。申込み不要。

【詳細】春光台公民館☎53・5620

遊



①旭川大学短期大学部の学生が主催する「だいがくでプレーパーク」。次回は10月15日(日)11:00~16:00、旭川大学(永山3の23)中庭で開催

【詳細】旭川大学短期大学部清水ゼミ ☎48・3121

※持ち物等については、同大学の清水ゼミ☎を参照。



②プレーパークを運営する岡本千晴さん。次回開催は、おやこ寺子屋のフェイスブックを参照【詳細】岡本さん☎090・7402・8066



「子供自身の自由な発想で遊べる場所をつくりたい」そんな思いが、全国各地で「プレーパーク」という活動として広がっています。

現在、市内には2つのプレーパークがありますが、その1つを運営する岡本千晴さんは「私の子供の頃と違い、今は、危険だから、周りに迷惑だからと子供の遊びが制限されることが多いと感じます。プレーパークはそうした制限をなくし、子供が自分の責任と発想で、やりたいことに挑戦できる場所です」と話します。

これまで神楽岡公園や広場などでプレーパークを開催。ビール箱や木の板、塩ビ管などを置いておくと、土や水、植物なども使って、

子供たちは思い思いに遊び出します。始めは遠慮して周りの様子を見ていた子も、だんだんと自分の遊び方を見つけていきます。

「泥だらけになったり、ずぶぬれになったりすることも子供が成長するための経験。少しぐらいのけがも遊びには付き物です。子供同士でトラブルになることもありますが、大人は介入せずに見守ります」と岡本さん。子供は遊びの中から様々な発見をし、人とのつながりを学んでいきます。

「今後はもっと地域を巻き込んで、子育てを地域全体で応援し、サポートしていければいいと思っています。親にも子にも、地域の人たちが温かく見守ってくれていると感じながら、成長していつかほしいです」と、岡本さんは話します。

広がる、市民による居場所づくり

旭川で最初に居場所としての子供食堂が始まったのは、平成27年。以来、次々と市民による子供の居場所づくりが広がっています。当初から居場所づくりに関わっている、旭川大学短期大学部准教授の清水冬樹さんに話を聞きました。

子供の居場所とは？

自分を受け入れてくれる人がいて、安心して自分らしくいられる場です。ここでは、家庭や学校の先生以外の大人と、関係を築いていくことができます。信頼できる大人や仲間との関わりを通じて、子供は自己肯定感を育み、将来の希望をつかんでいきます。出会った大人が、生きる上での憧れや目標になったり、家でも学校でも話せないことを話せる相手になったりすることもあります。



旭川大学短期大学部准教授の清水冬樹さん

居場所における大人の役割は？

子供のためにと、大人はつい先回りしてアドバイスしたくなりませんが、子供を受け止め、話を聞き、待つことが大事です。子供は失敗から学び、困っていることを自分自身で解決していく力を持っています。その力を信じるのが、大人の役割です。

子供の居場所は、大人の居場所にもなります。私自身、活動をスタートしたときは子供のためと思っていました。始めてみると、自分も子供に支えられていると感じます。

これから求められることは？

核家族やひとり親家庭、共働き家庭が増え、地域とのつながりが希薄になる中では、ますます子供の居場所が必要です。子供たちが集まるといことは、居場所が必要とされていることだと思います。今後は、子供が自分で通えるような地域の居場所が、市内各地に生まれるといいと思います。支援者の連携や勉強も必要です。関心のある人は、今ある居場所に足を運んで、見学してみてください。

私たちが応援しています！

子供たちのために、まちのために、自分ができていることを続けていきたいと思っています。地域全体で子供を見守るまちにしたいです！



子供食堂に差し入れに来たにししま とおる 西嶋 徹さん

遊びのお手伝いをしています。人との関わりが苦手な子が、何度も来るうちに他の子と遊べるようになった姿を見て、うれしかった！



さいとう なみは 斉藤幸波さん

食事を作ったり、参加した人の話を聞いたりしています。保護者にとっても、子供食堂のような場が必要です！



さいとう せつこ 佐藤節子さん

なかむら まいこ 中村摩維子さん

〈フォーラム〉 こども食堂の輪！ 全国リレー in 旭川・道北

全国や旭川の子供の居場所の現状、市民社会ができる子供支援などについて紹介します

とき 10月8日(日) 10:00~15:30
ところ 大雪クリスタルホール(神楽3の7)
講師 社会活動家 湯浅 誠さんほか

※詳細は市HPに掲載。

【申込】10月2日(月)までに
子育て支援課 ☎25・9128



市内には、今回紹介した他にも、地域の子供と大人が集う居場所がたくさん生まれています。市では今年度から、子供食堂や、地域まちづくり推進協議会が行う学習支援への補助をスタートし、地域で子供を見守り育てる輪が広がるよう応援しています。また、7月に実施した子供の生活実態調査の結果を踏まえ、子供が安心して生活を送ることができるよう、必要な支援の充実や改善につなげていきます。

【詳細】子育て支援課

☎25・9128